



早川神社・改修後(画像①)

氏神様『早川神社』は
会社から北に300m

鉄のふしぎ? 博物館

■68

「姫路のくさり 飲んべえ安」

画像はカラーと
交換しています。

衣川製鎖工業・衣川良介社長

祭神は兵主神(ひょうずのかみ)、別名「大己貴命」で『播磨国風土記』には、阿成のことが以下のように記されています。

「安師(あなし)の里土は中の中なり 右、安師と称(いう)は倭(やまと)の穴无(あなし)神の神戸(かむべ)に託(つ)きて仕(つか)え奉(ほう)る。故(かれ)、穴師と号(なづ)く。」

弊社のある姫路市飾磨区阿成渡場は、姫路城から約3km南南東、2級河川市川の右岸、すぐ南は播磨灘です。前述のように奈良時代は「安師(あなし)」と記され、穴无、穴無、と変遷し江戸時代中頃から「阿成(あなせ)」の字に定着。明治時代の初めまで市川に掛かる橋



元禄15年(1702年)(画像②)

生計を立てる。こんな土地に明治末期から「飲んべえ安」と呼ばれる鍛冶屋さんが住んでいました。鍛冶屋の仕事が少ない夏場には、小舟を操り前の浜で釣り糸を垂らしたり、網を洗ったり「飲んべえ安」は酒が大好き、はがらかな人です。近所の漁師やお百姓さん達に頼まれると道具の修理や新調をします。腕は一流ですが、あまり仕事はしたくないのです。その彼が一念発起して絵馬を早川神社に奉納しました。

はなく数ヶ所の船着き場から渡船が対岸へ往き来し、ここ阿成渡場も対岸の妻鹿へ人や荷物を運んでいました。市川の堤防は昭和30年ごろまで松並木が生い茂り河口の堤防上では、時代劇の撮影が行われたこともありま

す。明治時代の終わりに人々は小規模な農業、瀬戸内沿岸の漁業などで『鎖づくり』は、当時の

先端産業だったのです。野鍛冶として名人の腕を持つ加藤安太郎さん「飲んべえ安」の(本名)がどこで修行したかは解りませんが、持ち前の鍛冶技術を使ひ鎖で鳥居の絵馬を作りました。鳥居の柱はツイストチェーン(タイヤチェーン)に使われる、扁額(へんがく)は2本の丸棒で囲い中央には早川神社と書かれ、鳥居の台石には台形のリンクを用いています。絵馬には大正7年11月と記されています。たぶん「ふいご祭り」に奉納したのだでしょう。

『ふいご祭り』ふいごを大切に作る鍛



鎖の絵馬(画像③)

治屋達は「ふいご祭り」を11月8日に行っていました。私の子どもの頃は忘年会のかわりに大勢の従業員が自宅に集まり、水炊きと称する「鳥なべ」をつつき大酒をのんで、無礼講の酒盛りを夜遅くまで続けていました。 鞆(ふいご)の歴史、ホームページ「むらの鍛冶屋」を参考にしてください。(http://www.2.menenet.or.jp/kinugawa/huigo/index.htm)